

はつなぎ 初風に祈る

新年の季語に「初風」があります。元日の海が穏やかになぎわたることをいいます。同時に、正月を迎えた読み人の心の清らかさや落ち着き、また静かな決意を感じることができる季語だと思います。

初風の島は置けるが如くなり

高浜虚子

穏やかな元旦に高松から女木島、男木島や大島、また遠く直島や豊島を眺めた様子がぴったり当てはまるような句です。

初風に島の祠の昼灯

久米三汀

こちらは、島に渡ると小さな祠の正月灯りが明々としていて、その様子にめでたさと希望を感じることができた、というところでしょうか。

いよいよ3月20日から2回目となる瀬戸内国際芸術祭2013が始まります。「海の復権」をテーマとして、「民俗、芸能、祭、風土記という通時性」と「現代美術、建築、演劇という共時性」を交錯させ、瀬戸内海の魅力を世界に発信するプロジェクトであるという基本的なコンセプトは変わりません。前回の成功の基盤に立って、芸術祭と地域とのさらなる発展を祈りたいと思います。

歳時記の「初風」の解説には、「風というのは、海上・水辺のみに起こる現象ではなく、平野が尽きて山が始まる地帯にも生じるのだから、取材の範囲は広い」（注）とあります。島や港だけでなく、内陸部においても芸術祭の関連イベントを展開するなどして、市域のあちこちで明るい活力が生まれてくるような年となるよう願っています。

ところで、高松市が新しく作成した移住ガイドでは、「海、島、まち、山がみ～んな1時間圏内。「暮らしやすい！」って、こういうこと。」と高松の特徴を宣伝しています。芸術祭にやってくる多くの若者達に、高松のまちや山の魅力も大いにアピールして、U・J・Iターンなどにつなげていきたいとも思っています。皆さんも来られた人に問いかけてみてください。「小さいからこそ豊かな暮らし。さあ、余った時間で、あなたなら何をしますか？」

（注）「合本俳句歳時記新版」（角川書店）

（参考）「暮らしスリム化計画、始める。」（高松市移住ガイド）